



下高屋からドローンで撮影。正面奥に蔵持山、右は帝釈山。万葉の昔、さらに大昔から、人は永遠の時間の一瞬をこの里で暮らしてきた。

**仏法領**  
 ぶつぽうりょう  
 第83号

発行：真宗大谷派  
**念信寺**  
 〒 824 - 0202  
 福岡県京都郡みやこ町  
 犀川上高屋761  
 ☎ 0930-42-0329  
 Fax 0930-42-0502  
 ホームページ  
[nenshinji.org](http://nenshinji.org)  
 メールアドレス  
[nenshin@pony.ocn.ne.jp](mailto:nenshin@pony.ocn.ne.jp)

今年、良い年にしよう  
 昨年は会えなかった人に、会いに行こう  
 元気にしてるといいなあ  
 皆さんの春の訪れは、どうですか？

(写真・文 大迫光浩)

ハルウララ  
 鶯のさえずり  
 暖かい風を感じながら、桜を楽しむ



大正 14 年の上高屋小学校卒業生



**「懐かしいもの  
 大切なものってなんだろう？」**

整理するために捨てなくてはならないモノと捨てることのできないモノがあります。私もやがて身の回りの品物だけでなく、大切にしているモノやコトともお別れしなければなりません。最後は自分自身とも。

人との距離が遠くなりつつある現代、コロナウイルスが距離を広げるのにさらに拍車をかけています。何を大切にするのか吟味しなければなりません。



お寺にはその人のことを想うと捨てることが出来ないモノが結構あり、それは多かれ少なかれ誰にもあるでしょう。まだ現役で、使い込まれている懐かしい香合（お香入れ）が手元にあります。村の上で木工を趣味にしていた小田主税ちかからさんがくださった香合とお盆です。見栄えの良い工業製品の香合もあるけれど、蓋受け部分にお香がたまって蓋を開けた途端にお香がこぼれて具合が悪い。それで手作りで上の蓋が下とぴったり合って、お香が溝にたまらない小田さんの香合を愛用しています。木の温もりや手作りの質感が優しい気持ちにしてくれます。

ブツダは臨終に際して弟子が嘆き悲しむのをいましめた。全ては過ぎ去る（諸行無常）。嘆き悲しむことなく修行に励みなさい。真実に目覚めよと智慧をこそ大事にされたのでしよう。私の日々は多くのご縁に支えられているのに、自分の手柄にしてしまう傲慢さがお陰さまの道理を見えなくするようになります



今年3月から新総代をお引き受けくださったM T さんをご紹介します。

新総代です!

M T さん (犀川木井馬場)



M さんは昭和14年4月生まれで、もうすぐ82歳。旧犀川町役場に勤めておられたので、地元の方はよくご存知のことと思います。

現在、上木井宮農組合の組合長をなさっており、趣味は身体を動かすことだそうです。

奥様の M さんは一緒に本山にお参りしましたので坊守とも旧知の仲ですが、T 氏ご本人は坊守と初対面だったそうで几帳面にマスクをはずしてご挨拶をいただきました。

K 責役や元総代で来てみてギヤラリーの実行委員長を引き受けてくださった Y 氏とも同級生だそうです。他の総代さんとも言葉を交わすことは初めてでも、地元のこととはよくご存知ですぐに打ち解けておられました。

「わからんけ、よろしくお願います」と、実直で真面目なご挨拶をいただきました。



今回はもうお一人、遠賀町在住の H Y さんをご紹介します。

お彼岸にお参りしました

遠賀町在住の H さん宅には、親御さんお二人が健在であった頃からお彼岸とお盆にお参りしていただきます。また月に一度は上高屋にあるお墓掃除に来られるとか。

H さんは昭和33年生まれで、福岡教育大附属小学校で鍛えられ、美術教師として教員生活一筋、最後は小学校長をなさっていましたが、定年後の現在は畑仕事や焼き物教室に通ったりして危機管理のエキスパートとしての教員時代の疲れを癒していただけるご様子。料理が得意で住職にも手作りのトコロンをこづけて下さいます。



K さんは平成28年に還浄なさいましたが、住職をいつも待っていてくださいました。お母様の O さんはしっかりした働き者で、必ずお彼岸やお盆にはご仏前を送ってこられ、またお参りの住職をもてなして下さっていました。夫の K さんをととも大切にしておられ、またもとの性格分もあつたでしょうが人に親切に接して信頼関係を築く努力をしてお

られました。その姿勢に住職もお育てをいただきました。現在は施設に入っておられます。

仏様を大事にするということは、人としての温もりを大切にされて来られたということでしょうか。二人とも、故郷を離れてどれほど頑張ったことかと思像されます。

H 先生の教員時代のご苦労を支えたのはご両親と同居して来られた奥様やお子さん達ご家族なのと言うまでもありませんが、ご両親の生きざまから伝えられた人間への信頼と自信を自身も努力して探り当てて来られたからこそ激務に耐えられたのではないかとお話しをお伺いして感じさせられました。

物事に当たったの対応は、その人の歴史が自ずから現われます。今回のお彼岸のお参りは、また深いものに出遇わせていただいたご縁でした。



コロナに立ち向かう医療従事者に贈る詩

尾形絃光

新奇病魔立敢然

櫻花時節冒扶桑

人類脅威如戰場

医療担当超職分

自珍不斃断裁殃

新奇の病魔に敢然と立つ

桜花の時節 扶桑を冒す

人類の脅威 戦場の如し

医療担当 職分を超え

自珍不斃 殃を断裁す



専修学院を卒業しました

M T

ようやく春らしい気候になりました今日この頃、いかがお過ごしでしょうか。昨年度はコロナコロナと、何処に行こうにも何をしようにもウィルスを気にし、とても自由な生活を送れたとは言えない日々を過ごしたと思います。



私はつい先日3月18日に「大谷専修学院」を卒業しました。学院での生活は本来であれば全寮制で、互いに関係を深めていくという、そんな場所なのですが、コロナという事があり、その生活はほとんど送れず、通信制の授業となりました。最初の内は気が楽で大変結構といった気持ちだったのですが、その生活を続けるうち、何とも味気のない日々を過ごすだけとなり、ひどく寂しく思っていました。

コロナということが生活の主体となり、健康を気にして行くのは大変よろしいことなのですが、それだけでは寂しく思う私がいちたわけです。思うに、昨年度は多かれ少なかれ、皆さんも同じような寂しさを抱えていたのではないのでしょうか。

新しい年度が始まり、ワクワクンも少しづつ回り出した今日、昨年度の寂しさを埋められる程に人と関わり、昨年度は会えなかった人、行けなかった場所に面倒くさがらず、積極的に行動できたらと思っています。

(念信寺君院)



◆終活での習い事◆



YA

(北九州市小倉北区)

会社生活を終え、七年半以上が過ぎた。安全・収益・品質ばかりを追った会社

生活を終え、人生の残りを何かしなればと思っ



た時、新聞を見て、仏像彫刻教室を知り、習う事にした。学生時代、図画工作は不得手であつた

事から自分も驚いている。

現在七年以上取り組み、悪戦苦闘している今である。地藏菩薩のレリーフ等四体、白衣観音立像等三体が完成作品である。現在、阿弥陀如来坐像を制作中である。情けない事に、解らない事ばかりで、月一回の教室で、先生に手直しと、教えて頂く事ばかりで、私の作品の半分は先生の作でもあると言える。

念信寺をお参りに伺った時、玄関に檀家の方が彫られた(白衣観音菩薩レリーフと立像仏像)が飾られており、拝見させて頂いた。その時、私もこれぐらい上手く彫れる様になれるだろうかと思つた事があった。



仏像教室の先輩の話では、製作した自分の仏像の一体を、自分の棺に入れると言

これに倣い、棺の中に入れてもらい、あの世で、亡き両親、兄妹に感想を聞きたいものである。それまでに自分で納得出来る作品が出来るように努力をしたいと思つている。



絃ちゃんの独り言

コロナ禍での発表会

尾形絃光(添田町)



先日友達の前よりハガキが届いた。内容は2月の終わりに添田町の公民館活動で、各サークルが合同発表会を行つた時の写真が印刷されたものでした。添田町ではコロナ禍の為、公民館での練習や教室が出来なくなった上に、発表の場である文化祭も中止となり、皆さん

悶々とした日を送つていたが、コロナの状態でソーシャルディスタンスを取りながら、1グループ10分の時間の中での発表会であった。私は、ハーモニカ教室の皆さんと一緒にハーモニカ合奏をしたが、久しぶり舞台での緊張感を味わい、何か気持ちがすっきりしたのを感じている。発表会の中で特に印象が残つた出し

物は、作曲教室の皆さんである。30代から80代までの6名の方が自身で作曲し、編曲は指導者の方が担当したそうだが、自分の歌を感情込めて歌つておられた。自分の作つた詩だから曲だから余計に強いものがあつたのだろうが、何名かの方は涙を見せながらの熱唱であつた。大半の方が全くの素人で、指導者の方も大変だつたであろうが、皆さんの苦勞と努力が報われた一瞬だつた。

余談になるが、冒頭に出てきたF君と、ハーモニカ教室で一緒のY君とは詩吟の流派は違うが各大会で常に交流があり、漢詩と一緒に勉強する仲間である。皆さんからは同年代ということもあり漢詩3兄弟と言われる程、仲の良い友達だ。

F君は老人施設の慰問をずっと続けおり、私にもハーモニカで加わつてほしいとの話をもらつていたが、コロナ禍で再開の目途がたらずにいる。残念であり、コロナが早く治まるのを願うばかりである。



何故かホツとする風景

阿部正紀(吉富町在住)

最近テレビを観ていると、古い事、昔の事を取材するためにテレビカメラがごく一般の民間人の家庭内に入り込む番組が多くみられる。この場合、団地サイズの集合住宅や、

民間の賃貸住宅や、逆に広大な敷地を持つ豪邸ともいえる住宅に住む人達が登場するケースは少ない。ごく普通の少しの木々があり、普通の広さの庭があり、小さな門がある程度の家構えを持つ人が選ばれるケースが多いと思う。テレビ記者は和風の応接間に通され、座卓テーブルで取材を行うことになる。



テレビカメラは家内を撮影することが目的ではないので余り家内のもは映さない。だが移動した際に掛軸の架かつた床の間やその隣にある仏壇の座る仏間が見えることがある。

イエス・キリストが祀られた間はほとんど見たことがない。

筆者は床の間や仏間が垣間見えると、何故か非常にホツとした気持ち、安心感が湧いてくるのである。理由はまったく分からない。

和風の間には、多分長い年月を掛けて培われた日本そのものの良さ、懐かしさ、温もりが詰まつているのかも知れません。筆者も紛れのない日本の一員だと自覚しているので、自然にホツとし、安心感が湧いてくるのかもしれない。

読者の皆さんも必ずや、自らホツとできる事象、心持、風景をお持ちの事と思ひます。それらは自分の財産として大事にしたいものです。



# 春のお彼岸法要のご案内

まだまだ朝晩寒い日が続いております。皆さまいかがお過ごしですか？

さて、春のお彼岸法要を左記のように勤めます。寒さとコロナ禍のため様子を見てひと月遅らせました。今回も距離をとって座れるように、地区ごとに振り分けしておりますので、できれば表の左下の日にお参りくださるようお願い致します。当日のご都合が悪い場合はいずれの日でも構いません。

※マスクの着用をお願いします。

お茶は各自ご持参ください。

合掌

## 記

一、日時 四月十七日(土)、十八日(日)の二日間

一、講師 藤井 義英 先生

広島県 浄土真宗本願寺派 西教寺住職



期日	法座	昼席	地区ごとのお参り予定をお願い
4月17日(土)	午後1時30分		伊良原・横瀬・上木井・下木井・大丸・内垣・下本庄・松坂・他地区※
18日(日)	午後1時30分		上本庄・鏡畑・上高屋・他地区※

※他地区とは、豊津・築上・行橋・苅田・田川・北九州等です。

## コロナ対策として

- マスクの着用をお願いします。
- お茶は各自ご持参ください。
- 法座は2日間午後のみです。
- 出来れば地区指定の日にお参りください。
- 本堂の椅子は余裕をもって配置し、換気に努めます。
- 体調の不安がある場合は遠慮ください。

# 法座予定

二〇二一年

●皆作永代経法要

六月二十六(土)・二十七(日)

武井 弥弘 師 (九州教務所長)

●秋彼岸法要

十月二(土)・三(日)日

瓜生 崇 師 (滋賀・東近江市)

●ご正忌・報恩講

十一月二十一〜二十四日

未定

## 昨年の御正忌・報恩講法要

日時 2020年11月21日〜23日

講師 中西無量先生(田川市西岸寺、四日市別院輪番)

江本忍 先生(中津市長仁寺住職) 22日

コロナウイルス予防の為、午後のみ、お齋なし、地区割で行いました。それでも多くの方にお参り頂きました。



●御正忌にはまた独特の雰囲気があり、人々の息吹と共に御懇念が運ばれ有難いです。

# お寺の催し・活動



永尾家上げ仏事



大石家七五三参り



除夜の鐘は若い人が多かった!



3・18 浄真寺納骨堂彼岸参り



12/16釜ノ河内 お取越



2020・12/15, 別院団体参拝



3/30上高屋仏教婦人会追弔会



3/27墓園役員会議



3/29納骨堂役員会



2・25 浄真寺報恩講



3/30婦人会追弔会

## あとがき

コロナが問題になった昨年3月以降、人との関係が薄く遠ざかりつつあるのを実感します。そこで今号は古く懐かしいモノや事がテーマにしました。結局何を頼りに生きていくのか。ほんやりと恵まれたところで生きてきた人にはわからない。あるいは自分だけを頼りに生きてきたことができた人にもわからないものがある。それを信ぜずには生きていけない、むしろ確信は向こうから与えられるようなそんな痛いような感覚を今回のお彼岸のお参りからいただきました。



念信寺は今、年間を通じて最も快適な季節を迎えています。国内全体を見ても桜満開からつつじも咲き始め、春爛漫の陽気です。うきうきする気分絶好の筈です。コロナ禍さえなければ毎日のように思うこの頃です。

